

(泉野地区) 少子高齢化・学校の統廃合について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>茅野市は高齢化が進んでいる。60歳以上が何%いるのかわからないが、60代、70代の有効活用はできないか。例えば、皆車を持っているので、今不便になっている交通の部分で人を乗り降ろしていくシステム化はできないか。また、学校の維持が難しいのであれば60歳以上の人を先生として雇えないか。法律の壁はあると思うが、そういうところまで考えるのはどうか。</p>	<p>(市長) 茅野市の65歳以上の方の割合は31.8%で、比較的良い方だと思う。これが4割を超えるとかなり厳しくなる。今までは60歳が定年だったが、65歳まで働くのが当たり前になってきており、シルバー人材センターに新しい人が入って来ない状況。70歳を超えたあたりから、元気に活動される方とゆっくりされる方に分かれる傾向があり、地域のお助け隊として活動してくれる人はいるので、その方々を応援してみてもどうかと考えている。 車の運転については、ニュース等でライドシェアが話題になっている。現在の日本は法律によって普通免許の方がお客さんを乗せてお金を取ってはいけませんが、海外ではウーバーシステムで一般の人がタクシーのように人を乗せて走っている。日本ではその点議論中で、茅野市としては結果を待ってられないので、同じようなシステムで二種免許を持った方に運転してもらおう「のらぎあ」を始めており、タクシー業者に運行をお願いしている。また、「のらぎあ」はタクシーの様な運行が可能だが、タクシー業者からタクシーとの差別化をして欲しいの要望があり、あえてそのような運用はしないようにしている。今も運用については議論を続けているところである。</p> <p>(教育長) 茅野市は今まで小学校は9校の体制だが、この先一学年で10人を切ってしまう学校も出てくる。そうしたときに、今のままの学びが良いのかを考える必要があり、学校を維持するお金がないから小さい学校を大きい学校に統合するような発想はしない。皆で学校を中心とする体制をゼロから考えていく中で、結果として9校体制で頑張っていく結論になるか、再編成をする考えも出てくるのか、地域保護者の皆さんや子どもも交えて考えていく必要があると思う。60歳以上の方が学校に応援に来てくれるのは本当にありがたい。</p> <p>(市長) 学校の体制についてはまだ何も決まっていない。例えば、市内の中学校の数に合わせて全て小中一貫校の形にしていくという考え方もできるが、どこかの学校の生徒が少なくなっただけで大きい学校と一緒にすれば良いとは考えていない。泉野地区だけではなく茅野市全体の問題として捉え、どういう体制が良いのか、少なくとも2年くらいは話をしていかなければいけない。皆さんからいただいた意見を活かしながら、どこかのタイミングで素案を提示させていただきたいと思っている。</p>

意見要旨	説明・回答要旨
<p>【少子高齢化についての説明】</p>	<p>(地域創生政策監) 高齢者が地域を支える中心となっていて、大変な現状であると思う。ライドシェアの話が出たが、タクシーの道路交通法上の規制は営業の路線や運賃規制などを法律が規制している。道路運送事業者を経済的に守り、安全を守るという理由からで、ほとんどの法律は人口増加の時代に作った基本法や規制法で運用されており、人口減少となった今どうすればよいか議論している。欧米のライドシェアを日本でも使えないかという話が検討されているが、色々なところで問題が出てきているからだと思う。市で進めている区・自治会の負担を減らす研究だけでは、小手先なのだろうと感じた。新しく来た方の考え方と、今までこの地域を守ってきた皆さんの考え方をすり合わせていかないといけない。地域の文化や、ごみ出しなどの決まりもしっかり守っていきたいという行政としてもありがたい考えを、若くしてこの地域に来た方にどう受け入れて、楽しく暮らしてもらえるかの方法を一緒に考えていく必要があると思う。皆さんだけで考えるのではなくて、行政も間に入って考え、若い人の意見を聞く機会をつくるなどのサポートをしていきたい。</p>
<p>一番心配になること、特に小学校については、もうすぐ全校の生徒数が50人の学校になってしまうというのがショックだった。泉野小学校の良さは少人数であるところだが、生徒数が少なすぎで教育的な面で問題を感じる所もある。近くにある大人数の玉川小学校の良いところもあると思う。私は、大きな学校と小さな学校の交流があれば良いと思う。例えば1ヶ月間、泉野小学校と玉川小学校のそれぞれクラスの半数くらいを入れ替え行き来するのも意味があるのでは。「のらぎあ」をスクールバスみたいに運行して多くの子どもと仲良くなって中学校生活もスムーズにスタートするだろう。そして将来茅野市に働く場所があれば、地元に戻ってくる子どもが多くなると思う。</p>	<p>(市長) スクールバスについては我々も考えていて、今、「のらぎあ」と同時に通学通勤バスを市内5路線走らせており、主に中学生・高校生が使ってくれているので、引き続き考えていきたい。また、子ども達が地域に住み続け、戻ってきてくれるためには、働く場所や多様な職種が必要で、この地域にまだ存在しない産業の企業誘致や応援をして、若い人達のニーズに合う体制作りをしていきたい。</p> <p>(教育長) 良いアイデアだと思った。泉野小学校と玉川小学校で50人ぐらいずつ行き来をして何日間か一緒に時間を過ごすことはできるかもしれない。</p>

(泉野地区) 少子高齢化・学校の統廃合について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>今日テーマである大切なものを守るためにということで、大切なものは何かというのを考えると、人と人との繋がり、特に子どもと地域の人たちとの繋がりが大事だと考えている。子ども達は地域の人との関わりの中で生き方を学び、感謝をする心が育っているし、地域の人達は子ども達から元気をもらい、地域の活性化に繋がっていると思う。なので、ここに泉野小学校があるということが大きな意味をもっており、先ほど教育長からも生徒が少ないから統合するということではないと聞いた。ゼロから皆で小学校の子ども達のことを考えていこうという言葉もあったので、私もそこにに関わり、これからの子ども達のことを考えていこうと思っている。今の考えでは、小学校9校はずっと残ってほしいという気持ちである。</p>	<p>(市長) 学校については、これから皆で考えていかななくてはいけないと思っているので、またご意見をいただくようお願いしたい。</p>

(泉野地区) パートナーシップのまちづくりの見直しについて

意見要旨	説明・回答要旨
<p>総合計画の見直しを進めているようだが、効果が限定的で測定が難しい事業の見直し・廃止について、子どもや教育事業については数値で表せないことが多いのではと感じている。一步間違えると地域が崩壊してしまうのではないかと危惧している。こういう時こそパートナーシップのまちづくりで市民との対話、市民同士議論ができる環境を整えるのが理想なのではないか。今日のような形で、市民も現状を知り、市にできること、自分たちにできることを理解した上で要望を出せるようになる必要があると思う。</p>	<p>(市長) 福祉・環境・教育の3つをしっかりと守っていく中で、数値だけで判断するのではなく、市としても早めに情報を提供する努力をし、皆で議論ができるようにしたい。今までのパートナーシップのまちづくりを否定するわけではないが、新しいステージに入るべき時が来たと感じている。</p> <p>(副市長) 茅野市は昔から公民館活動において地域課題を学び、実践して解決していくという流れがあった。今中央公民館で公民館活動があり、市民活動センターでも市民活動があるが、両者に繋がりが無い。本来は様々な学びを繋げて行くことが必要だと思う。例えば廻り舞台など高齢者の方が学びを孫の世代に伝えていき、地域の文化や歴史を伝えていくことは大事な事だと思う。公民館活動や市民活動を再構築し、縦割になっているものを繋いでいくことがまちづくりにとって大事だと考えている。</p> <p>(パートナーシップのまちづくり推進課長) パートナーシップのまちづくり推進課では、コミュニティセンター、コミュニティ運営協議会と、市民活動センターを担当しており、地域の活動と市民活動の両方を担当している。公民館はまた別の部署にあり、これらは繋がっているのだろうがということで庁内で議論が交わされている。活動と気づきの場、公民館活動と市民活動をうまくつなげる仕組みを再構築していきたい。</p>

(泉野地区) 地区・区における役員の成り手不足

意見要旨	説明・回答要旨
<p>大日影区では区の存続が危険な状態になっている。区費や財産区、役の関係など様々あるが、区を良くしていこうという雰囲気づくりが難しい。役を受ける事の辛さばかりが目立ってしまい、区のためになる意見が出てこない。若い人が議論の場に出てきてくれないと、お年寄りが現役世代の時の話をし、若い人にも同じようにしなさいということになってしまう。若い人達は考え方が違って、自分たちの生活が1番であり、そこにギャップがある。何とか皆で仲良く存続できる区にしていきたいが、何か市が政策を作れば、自分たちも頑張ろうという動きにもなると思うので、お願いしたい。</p>	<p>(市長) 区・自治会の存続が厳しくなっているところが市内にたくさんある。行政としても区・自治会があるということが行政運営上大変ありがたいので、支援するところはしっかりとしていかなければならない。例えば区費がないからお金がある程度必要だとか率直に言っていただくと、我々も対応について検討ができるのでお願いしたい。若い人が来ないという事については、我々も悩んでいる。玉川地区の懇談会にも若い奥様が2人来ていて、懇談会の後も色々1時間ぐらいお話をした。その中で懇談会の場だと発言しづらいと言っていたので、例えばPTAなど若い方が集まる場所に出向いていくことも良いかもしれないと思った。若い人達の意見を政策に反映していくため、意見を聞く機会を作っていきたいと考えている。地域に来た人と地元の人意識のギャップに関連して、出不足金という制度にびっくりしたという意見もあった。区に入って一緒に頑張っているにも関わらず、区に入っていない人は出不足金を取られず、入っている人が取られるのはどういうことかという話であったが、そういった意見を一つ一つ聞き、一緒に考えてアドバイスをしていきたいと思う。</p>
<p>地区の課題としての地区、区における役員の成り手不足について</p>	<p>(市長) 少子高齢化と地区の成り手不足は連動した話で、地域に残り、また戻って来てもらうということは、すぐに効果が現れないので引き続き考えていきたい。以前玉川地区の広田の圃場整備が行われたが、あそこは区画整理事業と圃場事業とで長い間検討して、結果として圃場事業を行った。その際にも様々なご意見をいただいたが、区画整理事業をしていたら玉川小学校だけ子どもが増えてしまったかもしれない、圃場事業にして良かったと思っている。今豊平など周辺地域でも民間の会社が宅地造成をしており、人が増える可能性があるため、行政としても政策的にしっかり考えた中で物事を進めていきたい。</p>

(泉野地区) 消防の再編計画について

意見要旨	説明・回答要旨
4月の消防の再編について、将来的なあり方も含めてどう考えていくのか。	<p>(市長)</p> <p>消防はもともと自分の地域の消防という意識があるが、組織は茅野市消防団という1つの組織になっていて、各区にお金を出していただいたり、積載車や屯所の整備を皆さんにお世話していただき今まで維持してきた経緯がある。今後は、再編・統合ができた地区から配備する車両を市で用意する方針でいる。その代わりに、分団の規模によって、車両の種類（荷物を運びやすい車両、ポンプを運んでいく車両など）を決めていく。各分団で心配されている、消防団員を減らしてしまっても大丈夫かということについては、減らさないといつまでも消防団をすることになってしまうという課題を考えてのことである。新しい定員数は40歳くらいで退団できる計算で考えており、定員は減るが、持続可能な状態で地域の安心安全を守れるような体制を整えていきたいと思っている。</p> <p>(消防署長)</p> <p>消防団総合計画ができて、各分団、各地区で協議を進めている。今は過渡期で、様々な問題が出てきているが、今後はその問題を解決できるように消防課も努力をしていく。</p>

(泉野地区) まちづくり懇談会について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>ここ数年、まち懇に参加しているが、時間の半分ぐらいは市長なり市側の説明になっている。できれば、資料を事前にコミュニティセンターで配布したり、「広報ちの」に載せても良いと思う。「広報ちの」を読んだ人はまち懇の内容も分かるし参加する人も増えるかもしれない。若い人が少ないという話もあったが、例えば、春に子育て中のお母さんたちを対象にしたまち懇を開いたり、若いお父さんを対象にしたまち懇を開いたりしても良いと思うので対応策を考えてほしい。</p>	<p>(市長) ご意見を今後の参考とさせていただきます。</p>